

大館の歴史散歩

火内の山々 ⑧

獅子ヶ森 (上)

大館盆地北東に位置し、標高二百二十四・七メートル、小高く横たわる獅子ヶ森は、その山肌のあちらこちらに硬質な石英安山岩をのぞかせている。

周辺に住む人々が朝な夕なに見るその姿は、無言のうちにも安らぎを与えてくれ、なじみの山となっている。この山は長木八景のひとつにも数えられており、山頂から一望できる大館盆地の眺めはすばらしい。



▶天下町付近から獅子ヶ森を望む

「獅子ヶ森」という名の由来

については、昔、小峰が十六数えられたことから四四夜萬、十六山と呼ばれたとか、ススキがたくさん生えていたことから、すすきが森と呼ばれていたのが転じて「獅子ヶ森」となったと言われている（長木郷土読本）。さらに、江戸時代後期の紀行家菅江真澄が、日記「賛能辞賀楽美」（享和三年「一八〇三」）の中で獅子ヶ森のことを次のように記しているのを紹介したい。獅子ヶ森の山すそを通り、板子石へ抜ける途中の一節である。

「行く、むかふ獅子守山（獅子ヶ森山）は、むかし、大笠山にたぐふ妙なる音が聞こしかば、微妙山の名あり。……」

このようにいろいろな言われる由来であるが、定説はない。同じく「賛能辞賀楽美」の中に弘長（一二六一～一二六四）のむかし、執権職を退いた北条時頼が、回国行脚のおり愛妾唐糸姫（議言によって、鎌倉から津軽藤崎に逃がれ隠れ住んだという。南津軽郡藤崎町に唐糸

姫百年忌の塔がある）追善のため、初七日山釈迦堂（現釈迦内実相寺境内）を建立（弘長二年）し、釈迦牟尼仏の像を納めたくだりが記されている。この釈迦牟尼仏をつくる時、獅子ヶ森から求めたむろのまきという木を用いたとも言われている。

また、天下町を北上して獅子ヶ森東側の山すそを通り、商人留に通じる山道を、先人たちが往還によく利用したことであらう（市広報昭和六十三年三月十六日号「天下道」参照）。果たしてここを往来した人々は、この獅子ヶ森を見やうて、いったい何を思い何を語りかけたことであらうか。

市役所史跡探訪会

私の本棚

中央図書館新着図書

「小説 浅草案内」

半村良著 新潮社

今なお残る古きよき時代の浅草を舞台に、三社祭、植木市、粋と下町人情など、そこに生活する人々の哀愁とにぎわいをうたいあげる連作。



一般書

◇滅びの風（栗本薫）◇淡雪物語（早乙女貢）◇北風に起つ（黒岩重吾）◇火宅の女—春日局（平岩弓枝）◇或る青春の日記（北杜夫）◇天鬼秘剣（笹沢左保）◇北の国の虫たち（渡辺千尚）◇司書半生（相馬文子）◇ひらめきの瞬間（フローレンス・ビダル）◇勘三郎の天気（山川静夫）◇人生を恋した女たち（清川妙）◇アグネスの宝（仁藤泰子）他

児童書

◇天国へいったサブ（手島悠介）◇きみにおくるすばらしいスポーツ[全10巻]（汐文社）他

12月のテーマ関連図書コーナー

『日本人的なもの』

親子読み聞かせ会

毎週金曜日午後2時30分から

中央図書館の休館日

12月18、22日、12月28日～1月4日

1月15、16日

農業所得があり 所得税確定申告の必要な方へ

農業所得があり所得税の確定申告をしなければならぬ方（一月中旬に税務署から確定申告書が送付された方）の申告相談を、税務署と市が共同で次のとおり行います。

とき・昭和64年2月4日（上）～15日（水）

ところ・市役所第二会議室

※日程の詳細については、広報一月十六日号でお知らせします。

前記にあたらぬ方の申告相談は、二月十六日から各地区ごとに分けて行います。

なお、税務署から所得税の確定申告書が送付された方は、税務署へ申告してください。（税務署へ確定申告をした場合は、市役所への県民税の申告は必要ありません。）

問い合わせ・市税務課（49）3111内線232

